

学校の応援団 奈良教弘NEWS

株式会社奈良教弘
奈良市二条大路南
1-2-11

原点復帰！教弘誕生の秘話

第一章 教弘の芽生え

時は一九四五年、戦争が終わり日本は荒廃し、食べるものもないという時代でした。新しい憲法、教育基本法ができ、当時の先生方は民主主義の教育を進め、教育で日本の復興を果たそうと立ち上がりました。しかし、産業も興っていない状況で国や県の税収も少なく、公務員、先生方の給料は低く、一般よりも低い状況でした。

もし病気やケガをしたら大変なことになる。特に結核になったら、入院・手術も必要になるかもしれない。多額の費用がかかる。十分な社会保障もない。本当に生活に困ってしまうという不安定な状態にありました。

そこで、静岡県の有志の先生方が、月々百円（ChagTP）による一九五〇年当時の百円は現在の六千八百円の価値）ずつ給料から出し合って、銀行に預け、お互いの万が一に備えるという助け合い活動を始めました。そして、残った基金はどうしたのか。当時の先生方は崇高な志をもっておられ、自分たちに戻すのではなく、子どもたちのため、教育のために使うことにされました。経済的な理由で進学できない子どもたちのため奨学金にしたり、学校の課題解決のため参考図書を買ったり講師を招いたりする研究活動の助成金にしたりしました。近年では図書室の本を購入する助成金、チューリップの球根など学校環境をよくするために使っています。

第二章 教弘の誕生

このような助け合い活動、教育振興事業を実施したわけですが、現職の教職員は校務や授業があります。銀行に行ってお金を出し入れするよりも「まがありません。そこで、退職した教職員が「私たちがその仕事をやりましょう」と一九五二年、日本教育公務員弘済会（教弘）を設立しました。これが、教弘の誕生です。まずは静岡県からその後、全国に広がり、奈良県では一九五六年にできました。

しかし、問題がありました。教弘は教職員の団体ですから、病気やケガに対する補償金の算定が難しいのです。そこで、専門の会社に声をかけ、助けをもとめました。しかし、どの会社も、教職員の助け合い活動に協力しても利益にならないと相手にしてくれませんでした。そんな中、唯一、協栄生命が協力してくれることになりました。協栄生命は、教育の振興が日本の発展につながるという理念を持っていたからでした。

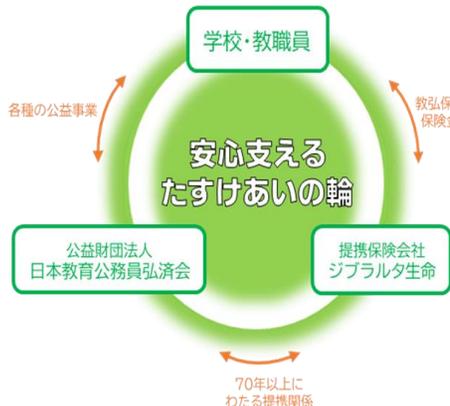
教弘と協栄生命は協力しました。そして、百円ずつ出し合うという当初の活動は、教弘保険という形に変えていったのです。

第三章 大事件の勃発

しかし、大きな事件が起こります。バブル経済がはじけ、協栄生命が倒産したのです。二〇〇〇年のことでした。多くの先生方が不利益を被り、教弘から離れていきました。教弘は困りました。なんとか先生方の信頼を取り戻し、この助け合い活動を続けたい。そこで、新たなパートナーを探しました。どの会社も振り向いてくれませんでした。しかし、唯一、ジブラルタ生命だけが協力してくれました。ジブラルタのコンセプトは人間愛・家族愛であり、これは教職員の「助け合い活動」の精神に合致したからでした。

第四章 そして今

二〇〇一年以降、教弘とジブラルタは、堅実に運営を続けました。そして二〇一二年、教弘は内閣府から公益財団法人の許認可を受けるに至りました。公益に資する事業を堅実にやっていることが評価されたのです。ジブラルタの格付けはA+で最高水準です。今後も、教弘とジブラルタは先生方の安心と教育振興、先生方とご家族の福祉向上のため、地道にコツコツ堅実にがんばります。



奈良教弘は、学校・教職員、ジブラルタ生命との「たすけあいの輪」を広げることにより、教育の振興の充実を図るとともに、会員のみなさまの生活に安心と潤いをお届けします。

奈良教弘 新参事 紹介

奈良教弘でも人事異動がありました。3年間先生方にお世話になりました取締役兼参事の岩井宏之、九鬼立明が退社し、新たに2名の参事を迎えました。



大山 浩史
元上牧第二中学校長



山口 智美
元朝和小学校長

新人紹介

ジブラルタ生命
奈良第三営業所
学校担当LC



名前：松田 剛
(マツダ タケシ)
経歴：富雄高校・仏教大学
一般企業（配送業）を経て
現職

担当校：あすか野小・辰市小・上牧小
担当校のみなさまへ
あなたは5年後、20年後の暮らしの変化をはっきりイメージできていますか？ご自分の夢の実現や幸せな人生を送るための「ライフプランニング」を私と一緒に考えてみませんか。

ピカピカの一年生！

奈良教弘とジブラルタ生命は、奈良県下の学校に新入生をお祝いする祝詞を送った。
「信は力なり」青春ラグビードラマの金字塔「泣き虫先生の7年戦争 スクール☆ウォーズ」の基となった京都伏見工業高校ラグビー部監督山口良治氏がこよなく愛した言葉である。

孔子が国を治めるのに必要なものは何かと問われ、「兵」「食」「信」と答えた。その中で最初に捨てることすると「兵」さらに捨てることと「食」とした。「信」があれば民から信頼され「食」が集まり、「食」が揃えば「兵」が集まる。最初に「信」を捨てることは「兵」と「食」も捨てることと同じことで、「信」がなければ国を治めることが出来ないという意味がある。
(村田貴)



困った時に、疲れた時に、ほっと一息。 先生応援サイト

日教弘クラブオフ会員になれば、暮らしを豊かにするサービスを受けられるほか、教職員の方々の悩みや不安を解消するためにつくられたサイトを利用することができます。「がんばれ、新人先生！」「今月のなるほど先生」「先生の駆け込み部屋」など役立つ情報が満載！



入会は、こちらのQRコードから